

ロータリーを学ぶ

2. 職業奉仕の森

1) 職業奉仕は難しい？

●現在の「職業奉仕」の公式定義

職業奉仕の歴史を概観していく前に、先ず現在の「職業奉仕」の定義を明確にしておきたいと思えます。それは、下記の標準ロータリークラブ定款「第6条の2」（2019年）です。

<2019年 標準ロータリークラブ定款（Standard Rotary Club Constitution）>

第6条 五大奉仕部門

2. 奉仕の第二部門である職業奉仕は、事業および専門職務の道徳的水準を高め、品位ある業務はすべて尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理念を実践していくという目的を持つものである。会員の役割には、ロータリーの理念に従って自分自身を律し、事業を行うこと、そして自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために、クラブが開発したプロジェクトに応えることが含まれる。

但し、「こんなものは、職業奉仕ではない」と主張する先輩ロータリアンも少なからずいます。しかし、「標準ロータリークラブ定款」の記載である以上、ロータリアンもロータリークラブも受け入れざるを得ないのです。受け入れられないのなら、ロータリアンを辞めなければなりません。もちろん、標準ロータリークラブ定款を規定審議会で変更することは可能です。しかし、少なくとも変更されるまでは、尊重遵守しなくてはならないのです。

●ロータリーとは？



さて、2017～18年度のRI会長イアン・ライズリー氏は、「ロータリーとは？」を自らの心に問いかけるようにという要望を、世界中のロータリアンに出しました。そして、それに対する回答を「ロータリーは、何をしているか」で考えて欲しいと述べたのです。それは、自らのロータリー観を省みることによって、明日からのロータリアンとしての活動を意義あるものにして欲しいという想いからでしょう。

<ロータリーとは？>

ロータリーとは

- ①ロータリアン同士の親睦を基盤に
- ②立派なロータリアンを育てながら、
- ③価値ある奉仕を通じて、社会に貢献する世界的な団体である。

では、「ロータリーとは？」、そして「ロータリーは、何をしているか？」を考えてみましょう。もちろん、100人いれば100通りの回答があるでしょう。それでも、多少は表現が異なるかも知れませんが、日本のロータリアンなら誰もが共感してくれる回答は、左記のようなものではないでしょうか。

●「価値ある奉仕」の中で、最も重要なもの“職業奉仕”である

それでは、③の「価値ある奉仕」のうち、最も重要な奉仕とは何でしょう。もちろん、それは職業奉仕です。なぜなら、我々ロータリアンの一日の活動のうち、その大部分は「仕事」に従事している時間だからです。すなわち、仕事を通じて社会に奉仕（貢献）する「職業奉仕」の時間こそ、我々ロータリアンの生活の大部分だということです。しかも、それによって、家族や職員、関連業者なども含めて、生活の糧を得ているのです。

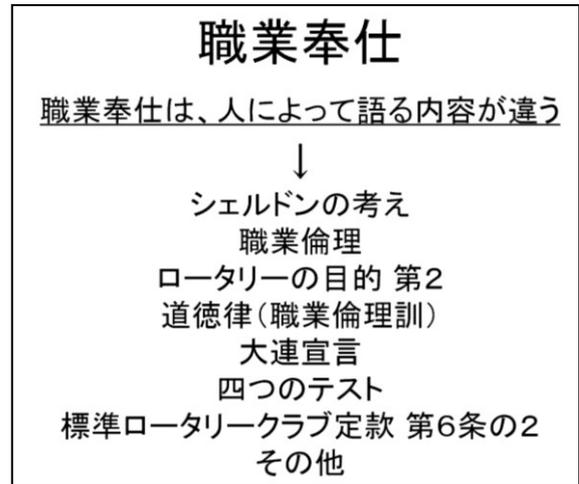
もちろん、ロータリアンである以上、充実した職業奉仕をしなければなりません。しかも、職業奉仕が充実していなければ、利益どころか事業の継続さえ困難になってしまいます。そうならば、職業奉仕以外の「価値ある奉仕」に携わることさえ困難です。だからこそ、職業奉仕は我々ロータリアンにとって最も重要な「価値ある奉仕」なのです。

●職業奉仕は難しい？

それなのに、「職業奉仕は難しい」という言葉をよく耳にします。なぜでしょう？ 理由は色々あるとは思いますが、大きな理由の一つは、ロータリーの大先輩達による職業奉仕の説明が、人によってかなり異なるからではないでしょうか？

ある大先輩は、職業奉仕は「シェルドンの考えそのものだ」と言います。また、「職業倫理そのものだ」と言う人、「ロータリーの目的の第2が全てだ」と言う人もいます。さらには、「道徳律（職業倫理訓）」や「大連宣言」を説く人、

「四つのテスト」を説く人もいます。ところが、前述したように、現在の職業奉仕の公式定義は「標準ロータリークラブ定款 第6条の2（2019年）」なのです。これでは、聞いている方が混乱するのも当然です。



これらに共通する特徴は、「職業奉仕は一本の大木」であるかのような説明でしょう。

なお、四つのテストは、

1943年、国際ロータリー理事会が「職業奉仕プログラムの一つの構成要素とする
The R.I. Board in January 1943 made The Four-Way Test a component
of the Vocational Service program.

と決めたものであり、あくまで職業奉仕の良いプログラムの1つ（に過ぎない）であることに留意してください。

●職業奉仕は、森である

私は、ロータリーの歴史をそれなりに広く深く学んできて、「職業奉仕は一本の大木ではない」と思うようになりました。むしろ、「職業奉仕は森である」と考えています。

森は、高い所、低い所、陽のあたる所、陽があたりにくい所など、各々の場所で生えている木々は違いますし、また互いに影響し合って生えています。しかし、それら全体で森なのです。ですから、例えば高い所に生えている木だけを説明しても、その森の全てを語ったことにはなりません。



それと同様に、「職業奉仕に対する考え方は、歴史上、間違いなく幾つもある。すなわち、職業奉仕という森には、異なる様々な木々が生い茂り、互いに影響し合って育っている。だから、それらの木々全部を対象にして、はじめて職業奉仕が理解できるようになる」と、私は思うのです。

●職業奉仕の歴史

職業奉仕の森について語る前に、ロータリーにおける職業奉仕の歴史について概観しておきましょう。

右の表は、ロータリーの職業奉仕を理解する上で、重要な項目だけを挙げたつもりです。これから職業奉仕を学ぶ人には、ぜひ参考にしていただければと思います。

職業奉仕を考える上で留意して欲しいのは、誰もが「道徳律（職業倫理訓）」や「決議 23-34」などの大きなトピックに目がいきますが、実は、①1910年から1912年の間に起きたこと、②1927年の四大奉仕の分割、そして③1987年から最近までの流れが重要なのです。

職業奉仕の歴史

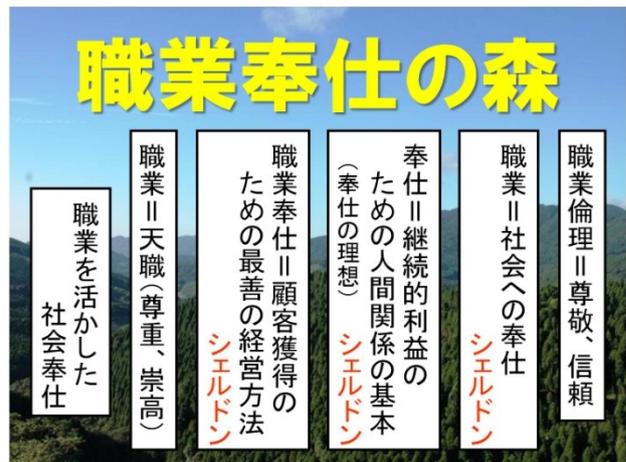
- 1905年 シカゴロータリークラブ創立
- 1908年 Arthur F Sheldon入会
- 1910年 全米ロータリークラブ連合会 (NARC) 設立
- 1911年 「ロータリー宣言」
- 1912年 国際ロータリークラブ連合会 (IARC) に改称
- 1915年 「道徳律(職業倫理訓)」
- 1916年 「A Talking Knowledge of Rotary」
- 1922年 国際ロータリー (RI) に改称
- 1923年 「決議23-34」
- 1927年 四大奉仕の分割(職業奉仕の呼称と定義)
- 1936年 大連宣言 (ロータリー宣言)
- 1987年 「職業奉仕に関する声明」
- 1989年 「ロータリアンの職業宣言」
- 2007年 標準ロータリークラブ定款「四大奉仕」を明記
- 2010年 標準ロータリークラブ定款「五大奉仕」を明記
- 2011年 「ロータリーの行動規範」
- 2014年 「ロータリーの行動規範」改定
「ロータリアンの行動規範」(上記の再改定)
- 2016年 標準ロータリークラブ定款「五大奉仕」改訂
- 2019年 「ロータリアンの行動規範」(上記の再々改定)

●「職業奉仕の森」の概要

さて、それでは本題です。「職業奉仕の森」にはどのような木々が生い茂っているのでしょうか？

私は図に示したように、職業奉仕の森は、大きく分けると6つの木々群（そのうちの3つは Arthur Frederick Sheldon の奉仕理論）からできていると思います。そして、最初に生えてきた木々が「職業倫理」です。

次稿から、これら6つの木々群について、順を追って説明していきます。



(2014年5月1日 初稿、2020年4月25日 最終改訂 文責：鈴木一作)